

施工法

セラミックタイル

タイルの施工方法は、タイルの大型化、施工効率の向上、剥離防止等のため、また、施工材料の発達により改良・開発が進められ変化しています。ここでは、現在一般的に用いられている施工方法の中から、ABCコレクションの施工にお奨めの代表的な施工方法をご紹介します。

※施工方法はここに記載のないものもございます。下地の強度、施工場所、施工環境に応じた施工方法を選出してください。

【壁面への主な施工方法】

種類	形状/大きさ	高さ条件	主な施工方法	内壁	外壁	適応下地					
						モルタル	コンクリート	押出成形セメント板	ALCパネル	ボード下地	鉄骨下地
内装タイル	モザイク 200角～ 300角程度	1F高程度	接着剤張り	○		○				○ ※4	
内外装タイル			改良圧着張り	○	○	○	○ ※1	○ ※2	○ ※2		
大型内外装タイル	600角以上	1F・2F	大型タイル低層面 金物併用接着剤張り	○	○	○ ※3	○ ※3	○ ※3			
大型内外装タイル	600角以上	低層階程度	ニューグリップA工法 ※5	○	○	○		○ ※2 ※3			
大型外装タイル		中高層程度	ニューグリップB工法 ※5		○	○					○

注) 施工高は目安となります。下地や施工環境に応じて異なります。

- ※1 所定の躯体精度が確保されていることを原則とします。
- ※2 下地製品の規格幅内でタイルが割り付けられることを原則とします。
- ※3 下地製品の表面に下塗りを行いません。
- ※4 合板、ケイカル板、石膏ボード(厚み条件あり)P.177参照ください。
- ※5 タイル厚9.5mm以上にのみ対応しております。

【床面への主な施工方法】

種類	形状 / 大きさ	主な施工方法	内壁	外壁	適応下地		
					モルタル	敷きモルタル	合板下地
内装タイル	モザイク 200角～ 300角程度	接着剤張り	○		○		○
内外装タイル		改良圧着張り	○	○	○		
大型内外装タイル	400角以上	改良圧着張り	○	○	○		
内外装タイル	600角、20mm厚	セメントペースト / 改良圧着張り(置き敷きも可)	○	○	○		○

Point

いずれの工法を採用する場合にも、タイル工事の基本として以下のポイントは確実に守らなければなりません。

- 1 施工箇所の条件に合った適切な施工法の選定
- 2 施工法に合ったタイルの選定(材質、大きさ、裏あし形状など)
- 3 伸縮調整目地の設置
- 4 十分な下地調整と下地養生期間の確保
- 5 工法の基準を守った正しい施工

【陶磁器質タイル用接着剤の選定】

内装タイルおよびモザイクタイル、ならびに内装用床タイルの張り付けに用いる接着剤は、JIS A 5548(2015)「セラミックタイル張り内装用有機系接着剤」規格に適合するものを使用してください。

規格では接着剤を用途により3種類に分類しています。下記表から適切な接着剤を選定し、ご使用ください。なお、下地の湿潤状況および、接着後の使用調査の時点でこれに対する明確な判断が困難な場合には、より安全に判断することが必要です。

種類	
タイプⅠ	湿っている下地に張り付け後、長期にわたって水および温水の影響を受ける箇所に用いるもの
タイプⅡ	ほぼ乾燥している下地に張り付け後、間欠的に水および温水の影響を受ける箇所に用いるもの
タイプⅢ	ほぼ乾燥している下地に張り付け後、水および温水の影響を受けない箇所に用いるもの

【検査】

<外観検査>

タイルの仕上がりは、不陸および汚れが目立たず、割れ・浮き上がりおよびふち欠けがないこととします。タイルの色調・仕上がり状態などの製作上のばらつきについては、工事監理者の承認を得ます。タイルの仕上がりは、目地の色ムラ、目地の深さの不均一が目立たずまた所定の目地詰めが十分行なわれていることとします。

<打音検査>

屋外および屋内の吹き抜け部分等の壁タイル張り仕上げ面は、施工後2週間以上経過した時点で、全面にわたりテストハンマーを用いて打音検査を行なってください。打音検査の結果、不具合箇所がある場合には工事監理者に報告し、施工計画書に基づき適切な処置をしてください。

<接着強度検査>

屋外および屋内の吹き抜け部分等の壁タイル張り仕上げ面は、引張試験を実施し、接着強度を確認してください。

【試験方法】

施工後2週間以上経過した時点で、引張試験機を用いて引張接着強度を測定します。また試験に先立ち、引張試験部の目地を下地面まで切断します。

【試験体の数】

試験体の数は、100㎡以下ごとに1個以上とし、かつ全面積で3個以上とします。試験体の位置は、工事監理者と協議のうえ、決定してください。

【試験体の大きさ】

測定するタイルの大きさが小口平の大きさよりも大きい場合は、タイルを小口平の大きさに切断し小口平の大きさとし、小口平以下のタイルの場合はタイルの大きさとし、試験に用いる鋼製アタッチメントの大きさ・形状は、測定するタイルと同一の大きさ・形状とします。

【判定】

引張接着強度のすべての測定結果が0.4N/㎡以上の場合を合格とします。押出成形セメント板およびALC/パネル下地に施工するタイルの接着強度は試験用パネルに施工した試験体を用いて確認します。

タイル下地用材料

<既成調合下地用モルタル>

既成調合タイル張り下地材料は、試験または信頼できる資料で品質の確かめられたものを、既成調合下地調整用補修モルタルは、JIS A 6916 (2014)「建築用下地調整塗材」規格のものを使用してください。

<現場調合モルタル>

【セメント】

普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210 (2019)「ポルトランドセメント」に適合したものを使用してください。

【細骨材】

細骨材は、清浄で有害量の粘土塊・泥分／有機不純物／塩化分などを含まないものを使用してください。最大寸法は塗り厚に支障のない限り大きいものを用い、塗り厚の半分以下としてください。

【混和材】

セメント混和用ポリマーはJIS A 6203 (2015)「セメント混和用ポリマーディスパージョン及び再乳化形粉末樹脂」に適合したもので、貯蔵安定性にすぐれたものを使用してください。保水材は試験または信頼できる資料で品質の確かめられたものを使用してください。また、清浄で有害な酸・塩類および有機不純物などを含まない水を用いてください。

施工条件と準備

<施工時の環境条件>

- 降雨時、降雪時、強風時などタイル工事に支障のあるとき、ならびにこれらが予測されるときは、原則、施工は行なわないでください。
- 塗り付け場所の気温が5℃以下および、施工後5℃以下になると予測される場合は、施工は行なわないでください。

<タイルの準備>

- タイル裏面のホコリ・製造時アルミナ（白い粉）の付着をウエスなどで拭き取りをしてください。
- 必要な数量を確認し前もって準備してください。
- タイルは必要に応じ適切な器具を用いて、切断・穴あけ・切欠きなどの加工を行ないます。切断面の凹凸は、グラインダーなどを用い平滑に仕上げてください。

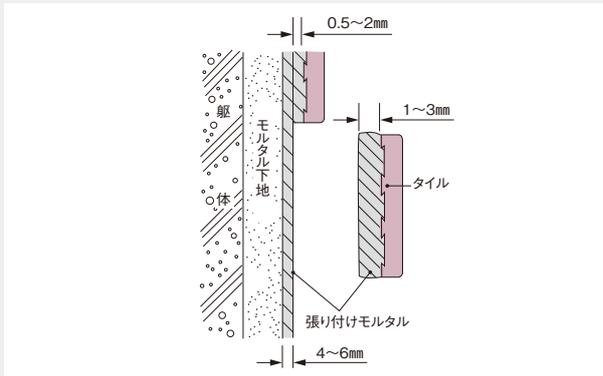
Point

- モルタルの練り混ぜは、機械練りとします。
- あらかじめセメントおよび細骨材を十分空練りしたのち、加水して練り混ぜを行なってください。
- 混和剤は、所定の方法により混合してください。
- 水を加えて練り混ぜた張り付けモルタルは、1時間以内に使用してください。

施工法

セラミックタイル(内外壁の施工)

改良圧着張り(壁面)



下地モルタル	木こて押さえ	
張り付けモルタル	セメント	1
	砂	1~2(粒度2.5mm以下)
	混和剤	メチルセルロースなど
張り代	下地側	4~6mm
	タイル側	0.5~2mm(塗り厚1~3mm)

張り付けモルタルを下地面に塗り、さらにタイル側にも薄く張り付けモルタルを塗り付けながら張り付ける工法です。下地とタイルの両面に張り付けモルタルを塗り付けるため、ばらつきが少なく、きわめて安全性の高い工法です。

【施工手順】

1. 下地の調整

- ① タイル張りに先立ち、下地の清掃を行ないます。
- ② 下地乾燥の程度を調べ、必要に応じてタイル張りの前日または当日に水湿しにより下地表面処理を行ないます。下地の吸水性にムラがある場合には、吸水調整材を用いて下地表面処理を行ないます。

2. タイルの割付け

- ① 施工図と照合し基準墨から仕上げ墨出しを行ない、各部位との取り合いについての寸法の確認を行ないます。
- ② 施工図におけるタイルの割付図と仕上げ墨出しの結果から、目地割りを決定します。
- ③ 目地割りに従って目地割り定規を作成し、基準となるコーナー部にピアノ線または水糸を引き通します。

3. 基準タイル張り

- ① コーナー部や開口部まわりの役物タイルは、その他の平部分タイル張りに先立ち、基準を設けるために施工します。

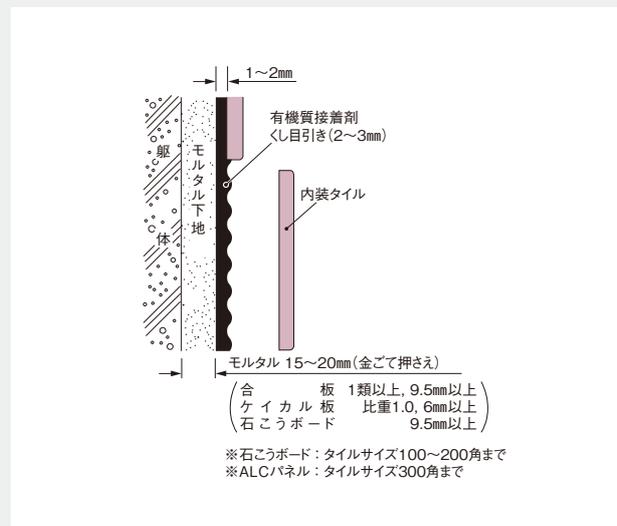
4. タイル張り

- ① 1回の塗り付け面積を2㎡以内として、張り付けモルタルを下地面側に4~6mmにムラなく塗ってください。張り付けモルタルは、練り混ぜから施工終了まで60分以内で使用してください。
- ② 塗り置き時間は、夏期で30分、冬期で40分以内を目安にしてください。
- ③ タイル裏面全体に張り付けモルタルを1~3mm程度の厚さで平らにならし、直ちに下地面に押し付け、さらにタイル張りに用いるハンマーなどでタイルの周辺からモルタルがはみ出すまで、入念にたたき押さえを行ないます。あらかじめ設けた水糸に合わせて、平らに張り付けます。
- ④ 午前および午後のタイル張り付け開始時に張り付けたタイルを張り付け直後にはがし、下地と張り付けモルタルの接着状況を確認します。
- ⑤ タイル張りが終了した後、張り付けモルタルの締め具合を見計らって、目地部分の掃除を行なってください。

Point

- タイル裏面に空隙ができないように、裏面全体に張り付けモルタルをのせます。
- 下地側の張り付けモルタルの塗り置き時間は、2時間程度までとします。
- 目地の深さは、タイル厚さの1/2以下になるまで目地モルタルを充填してください。(タイル剥離の原因となるため)
成面板下地への施工も可能ですが、パネルをまたがない割付けと、上下端の納め方に注意が必要です。

接着剤張り(内装壁)



有機質接着剤を使ってタイルを張り付ける方法です。施工は比較的容易で作業性も良く、下地もモルタルに限らず合板、無機質ボード類などに広く適用できます。

接着剤をくし目こてを使って下地面に塗り広げ、振動工具などを使いタイルをもみ込むようにして張ります。

【施工手順】

1. 下地の調整

- ① タイル張りに先立ち、下地の清掃を行ないます。
- ② 下地面が十分乾燥していることを確認してください。

2. タイルの割付け

- ① 施工図と照合し、基準墨から仕上げ墨出しを行ない、各部位との取り合いの条件について寸法の確認を行ないます。
- ② 基準となるコーナー部・開口部まわりの役物タイル、および壁面中央部における水平基準となるための基準タイル張りを行ないます。

3. タイル張り

- ① 一成分形の接着剤を用いる場合は、メーカーの指示する塗り置き時間に留意してタイルを圧着します。二成分形の接着剤を用いる場合は、可使用時間以内にタイルを圧着します。
- ② 二成分形の接着剤を用いる場合は、メーカー指定の混合比率を厳守し、硬化不良を防止するため十分に混練してください。
- ③ 接着剤はメーカー指定のくし目こてを用い、塗厚2~3mm程度になるようにし、かつ、下地面に押さえつけるよう入念に塗布します。
- ④ 下地およびタイルと接着剤との接着状況を確認するため、適時タイルをはがして接着状況を確認します。
- ⑤ 200mm角以上の大きさのタイルを張る場合は、特にタイルのずれが生じないような接着剤を選定して張り付けてください。

Point

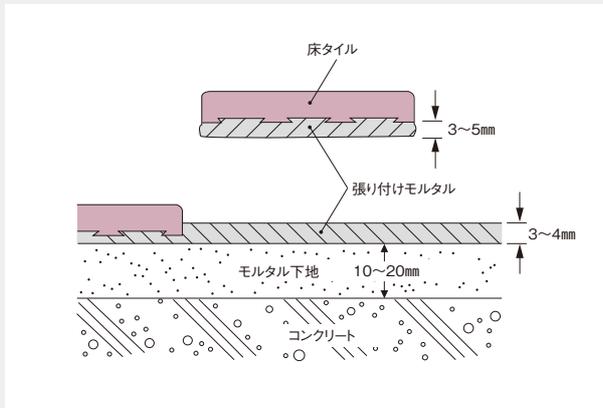
- 施工箇所、用途にあった適切な接着剤の選定が必要です。
- 塗り付け面積は接着剤表面に乾燥皮膜ができないうちにタイルを張ることのできる広さ(通常2㎡以下、30分以内)を塗っていくことが必要です。
- 下地はよく乾燥し、汚れがなく、かつ高い平滑度(長さ2mに対して±1mm程度)が必要で、モルタル下地の場合は金こてで仕上げます。
- 目地の深さは、タイル厚さの1/2以下になるまで目地モルタルを充填してください。(タイル剥離の原因となるため)

施工法

セラミックタイル(床面の施工)

300角以上の大板床タイルは、一般的に大板床タイル張りと呼ばれる施工法が用いられます。しかしながら、近年広く使用されている吸水率の低い磁器質の床タイル(ポルチェラタイプ)の施工に際しては、樹脂モルタルを使っての改良圧着張りをおすすめします。

改良圧着張り(床面)



モルタル下地	1:3~4 木こて押さえ	
張り付けモルタル (樹脂モルタル)	セメント	1
	細骨材	1~2(粒度2.5mm以下)
	混和剤	メチルセルロースなど

壁面同様、あらかじめ木こて押さえしたモルタル下地を作成します。その上に張り付けモルタルを塗布し、タイル裏面にも張り付けモルタルを塗り、張り付けます。300角以上の大板床タイルの施工に適した張り方です。

【施工手順】

1. 下地の調整

- ① タイル張りに先立ち、下地の清掃を行ないます。
- ② 下地乾燥の程度を調べ、必要に応じてタイル張りの前日または当日に水湿しにより下地表面処理を行ないます。下地の吸水性にムラがある場合には、吸水調整材を用いて下地表面処理を行ないます。

2. タイルの割付け

- ① 施工図と照合し基準墨から仕上げ墨出しを行ない、各部位との取り合いや水勾配などの条件についての寸法の確認を行ないます。
- ② タイル仕上がり面を基準として墨もしくは水糸を引き通します。

3. 基準タイル張り

- ① 直角の基準をとるために目地割りに応じて、縦・横3~4m間隔に基準タイル張りを行ないます。

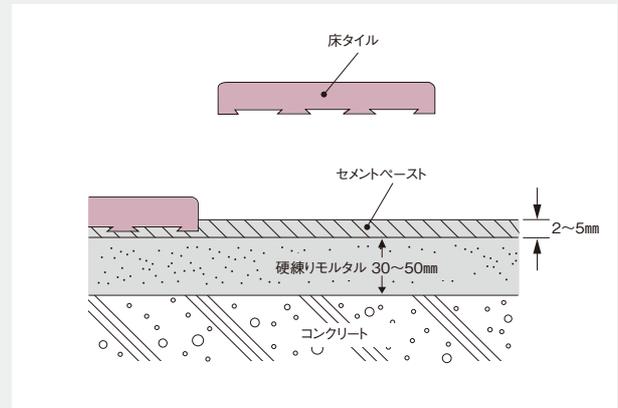
4. タイル張り

- ① 1回の塗り付け面積を2㎡以内として、張り付けモルタルを下地面側に3~4mmにムラなく塗り、定規ずりによって平坦にならします。
- ② 張り付けモルタルは練り混ぜから施工完了まで60分以内で使用し、塗り置き時間は、夏期で20分、冬期で40分以内を目安にしてください。
- ③ タイル裏面全体に張り付けモルタルを3~5mm程度の厚さで平らにならし、直ちに下地面に押し付け、さらにタイル張りに用いるハンマーなどでタイルの周辺からモルタルがはみ出さず、入念にたたき押さえを行ないます。
- ④ 午前および午後のタイル張り付け開始時に張り付けたタイルを張り付け直後にはがし、タイルと張り付けモルタルおよび下地と張り付けモルタルの接着状況を確認します。
- ⑤ タイル張りが終了した後、張り付けモルタルの締め具合を見計らって、目地部分の掃除を行なってください。

Point

- 張り付けモルタルには上記の表のとおり、混和剤入りの樹脂モルタルを使用してください。樹脂モルタルはセメントモルタルに、セメント混和用ポリマーディスパージョン、または再乳化形粉末樹脂を加えることによって、モルタルの接着性や耐久性などを向上させたものです。
- タイル裏面のアルミナ(白い粉)をウエス等で除去後施工をしてください。

セメントペースト張り(床面)



	セメント	細骨材
硬練りモルタル	1	3~4(粒度2.5mm以下)
セメントペースト	1	—

タイル施工時に、硬練りモルタルで下地レベルを出し、下地が硬化する前にセメントペーストで圧着張りします。短期間工期などに適した施工法です。

【施工手順】

1. 下地の調整

- ① タイル張りに先立ち、下地コンクリートの清掃を行ないます。

2. タイルの割付け

- ① 施工図と照合し、基準墨から仕上げ墨出しを行ない、各部位との取り合いや水勾配などの設計条件について寸法の確認を行ないます。
- ② タイル仕上がり面を基準として、墨もしくは水糸を引き通します。

3. 基準タイル張り

- ① 直角の基準をとるために、目地割りに応じて縦・横3~4m間隔に基準タイル張りを行ないます。
- ② 下地コンクリート面に水打をしたのち、敷きモルタルを30~50mm程度の厚さでタイル幅の2倍ほどの幅に敷き平坦にならします。
- ③ 敷きモルタルの硬化前にセメントペーストを2~5mm程度の厚さで敷きモルタル上に流し、直ちに仕上がり糸に合わせゴムハンマーなどを用いてたたき押さえをします。
- ④ 余分な敷きモルタルを取り除き清掃してください。

Point

- 十分にたたき締めて下地を作ります。

4. タイル張り

- ① 基準タイル張りを行なった区画内に敷きモルタルを敷き、十分たたき締めて基準タイル間に水糸をはりながら、基準タイル張りと同様にタイルを張り進めます。
- ② 目地部に盛り上がったセメントペーストを、その硬化を見計らって取り除いてください。
- ③ タイル張りや目地さらいの際には、張り上げたタイルを動かさないよう注意してください。

Point

- セメントペーストは、タイルを1枚張るごとに塗布します。
- 加圧で割れるおそれがあるため、セメントペーストおよび敷きモルタルとタイル全裏面に隙間の無いようにしっかりとたたき押さえをします。

推奨副資材

P.175～P.181「施工方法」で推奨の(株)タイルメント社製品です。

※本製品は取り扱い品ではありません。使用方法、購入方法などについては下記製造元までお問い合わせください。

	テラタイトホワイト・グレー	TAセメント90N	MS-20	MSフロアー 10
品名	粉末形 F☆☆☆☆	粉末形 F☆☆☆☆ 日本建築仕上材工業会 登録番号 0904044	JAJA F☆☆☆☆ JAJA 4VOC 基準適合	JIS A 5549 F☆☆☆☆ 化学反応形 JAJA 4VOC 基準適合
主な用途	大形陶磁器質タイルや石材をコンクリート、モルタル下地へ施工するのに適しています。	TAセメント90Nは、速硬化の特長を持つタイル・石材用既調合張り付けモルタルです。また、コンクリート・モルタル下地だけでなく既存のタイル下地(屋外の壁面を除く)への施工が可能です。	屋内壁面タイル・石材施工用として開発された、点付け施工用の一液反応硬化形の変成シリコン樹脂系接着剤です。硬化後は適度な硬さを保持することで、接着強さを確保しつつ、下地の変形やタイルの動きによる応力を緩和します。	内装床面へのタイル・石材施工用として開発された1液反応硬化形変成シリコン樹脂系接着剤です。初期硬化性にすぐれ、硬化後はほどよい硬さを保持することで、下地の変形や局部荷重による仕上げ材への不具合影響を低減します。
性質	適用箇所 屋内および屋外の壁面および床面 主成分 [ホワイト] 特殊セメント(白色)、粉末樹脂 [グレー] 普通ポルトランドセメント(灰色)、粉末樹脂 混合比(重量比) テラタイト:水=20:4.6 標準使用量 6~10kg/㎡ 2~3.3㎡/20kg	適用箇所 屋内および屋外の壁面および床面 主成分 特殊セメント 標準使用量(粉体のみの場合) [5×5×10mm角ノッチゴテ] 1.9~2.2kg/㎡ 2.2~2.6㎡/5kg [7×7×14mm角ノッチゴテ] 2.3~2.7kg/㎡ 1.8~2.1㎡/5kg	適用箇所 屋内の壁面 ※業務用浴室への使用不可 主成分 変成シリコン樹脂 標準使用量 2.4~4.0kg/㎡(浮かし厚5mmの場合) 60g/1点(直径約50mm、高さ約30mmダンゴ状)	適用箇所 屋内の乾燥した床面 主成分 変成シリコン樹脂 標準使用量(合板下地のみの場合) [5×5×10mm角ノッチゴテ] 2~2.4kg/㎡ 0.8~1㎡/2kg [7×7×14mm角ノッチゴテ] 3~3.4kg/㎡ 0.5~0.6㎡/2kg
容量	20kg	5kg	2kg	2kg
包装形態	セメント袋	セメント袋	フィルムパック	フィルムパック

	インテリアフレックス	EPS-20 ソフトタイプ	ME-01	フレックスマルチ
品名	JIS A 5548 タイプ1 F☆☆☆☆ 化学反応形 JAJA 4VOC 基準適合	JIS A 5548 タイプ1 F☆☆☆☆ 無溶剤系 2液混合形 JAJA 4VOC 基準適合	JIS A 5548 タイプ1 F☆☆☆☆ 無溶剤系 2液混合形 JAJA 4VOC 基準適合	JIS A 5557/JIS A 5548 タイプ1 F☆☆☆☆ 無溶剤系 JAJA 4VOC 基準適合
主な用途	内装用タイルや石材の張り付け施工用として開発された一液反応硬化形の変成シリコン樹脂系接着剤です。硬化後はゴム状の弾力性を持つため、下地変形などによる応力を緩和します。ボーダータイル張り付けなどセメント目地を詰めない工法にも使用できます。	石材をモルタル、PC板、合板、ボードなどに接着施工するのに適しています。混ぜると白くなる補色タイプです。[6.00角厚み20mmまでの石材] 浮かし厚5mm以下	陶磁器質タイルや薄物石材を金属、FRP、コンクリート、モルタル下地へ接着施工するのに適しています。弾力性接着剤です。	内外装用タイル(乾式二丁掛けタイル以下)をモルタルやボード類下地へ接着施工するのに適しています。フィルムパック入りの弾力性接着剤です。セメント目地不要工法としてもご使用できます。
性質	適用箇所 屋内の壁面 ※業務用浴室への使用不可 主成分 変成シリコン樹脂 標準使用量 [3mmクシ目] 1~1.2kg/㎡ 0.8~1㎡/kg 1.6~2㎡/2kg [5mmクシ目] 2~2.5kg/㎡ 0.4~0.5㎡/kg 0.8~1㎡/2kg 色 ホワイト、ダークグレー	適用箇所 屋内の壁面 主成分 主剤:エポキシ樹脂 硬化剤:ポリアミドアミン 混合比(重量比) 主剤:硬化剤=1:1 標準使用量(平滑面の場合) 1.6~2.5kg/㎡ 0.4~0.6㎡/kg	適用箇所 屋外および屋内の壁面 主成分 A剤:エポキシ樹脂 B剤:変成シリコン 混合比(重量比) A剤:B剤=1:2 標準使用量 1.5~3kg/㎡ 0.3~0.6㎡/kg	適用箇所 屋外および屋内の壁面 主成分 変成シリコン、エポキシ樹脂 標準使用量 スレート下地の場合 2~2.5kg/㎡ 0.4~0.5㎡/kg 色 オフホワイト、ベージュ、グレー、ダークグレー、ブラック
容量	2kg	20kgセット ヘラ・混ぜ板付	15kgセット	2kg
包装形態	フィルムパック	缶	缶	フィルムパック

	ME-05	MEペース	CG-411	TAグラウトEP
品名	JAJA F☆☆☆☆ 無溶剤系 JAJA 4VOC 基準適合	JAJA F☆☆☆☆ 無溶剤系 JAJA 4VOC 基準適合	NSK F☆☆☆☆ 粉末形	JAJA F☆☆☆☆ JAJA 4VOC 基準適合
主な用途	屋外壁面へのタイル・石材施工用(落下防止金物併用)として開発された一液反応硬化形の変成シリコン・エポキシ樹脂系接着剤です。硬化性に優れ、硬化後は適度な硬さを保持することで、接着強さを確保しつつ、下地の変形や仕上げ材の動きによる応力を緩和します。	コンクリート、モルタル、押出成形セメント板の下地の部分補修用に開発された有機系下地調整塗材です。ドライアウトや凍結の心配もなく、硬化後はゴム状の弾力性を持つため、下地変形や熱膨張などによる応力を緩和します。	内装陶磁器質タイル用のセメント系既調合目地材です。	耐水、耐薬品性にすぐれたエポキシ樹脂系目地材です。硬化前のふき取り性にすぐれ、タイル表面を汚すことなく塗り目地施工上げができます。また、生活汚れに強く、抗菌・防カビ性も有します。床暖房や合板下地など動きのある下地への施工も可能です。
性質	適用箇所 屋外の壁面 主成分 変成シリコン、エポキシ樹脂系 標準使用量(平滑面の場合) [点付け 60g/点] 2.4~4.0kg/㎡(浮かし厚5mmの場合)	適用箇所 屋外の壁面 主成分 変成シリコン、エポキシ樹脂系 標準使用量(平滑面の場合) 2.1~2.5kg/㎡(塗布厚1mmの場合)	適用箇所 屋内の壁面 主成分 特殊セメント、特殊調合骨材、合成樹脂 混合比(重量比) CG-411:水=10:3.3~3.5(白色) 標準使用量 0.5~0.6kg/㎡ 1.6~2㎡/kg 色 白色、灰色、濃灰色、黒色	適用箇所 屋内の壁面および床面 乾式二重床(推奨施工方法に基づく) 主成分 主剤:エポキシ樹脂 硬化剤:アミン 混合比(重量比) 主剤:硬化剤=1:1 標準使用量 約0.3~0.4kg/㎡(300角の場合)
容量	2kg ヘラ付き	2kg	20kg(白のみ) 10kg	4kgセット
包装形態	フィルムパック	フィルムパック	セメント袋 セメント袋	ポリ容器

製造元・問い合わせ先 株式会社 タイルメント

本社 愛知県名古屋市中村区宿跡町 1-58 TEL : 052-412-7321
 東京支店 東京都墨田区文花 2-2-9 TEL : 03-3616-2201
 大阪支店 大阪府吹田市垂水町 3-28-3 TEL : 06-6386-6141
 ※他支店、営業所については、下記ホームページにてご確認ください。
<http://www.tilement.co.jp>